

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195003108		
法人名	一般社団法人 はな		
事業所名	グループホーム はな		
所在地	北見市桜町6丁目2-1		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果市町村受理日	平成31年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護保険法令に従い、要介護者で認知症疾患のあるご入居者に対し、温かく明るい家庭的な環境の中で、認知症の進行を穏やかにし、精神的に安定した心安らかな生活を送れるよう支援することを目的としています。
また、ご入居者の幸せを願い充分な気配りで共同生活の円滑化を図り、個人個人にあった自立生活を維持・継続できる場としクオリティ・オブ・ライフを確保するよう、“自由で 楽しく 安心”の理念のもと、理解と愛情のある認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護サービスの提供に努めます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://hw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvoynoCd=0195003108-008
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成31年1月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

誰でもすぐに覚えられる言葉で理念を「自由で 楽しく 安心」と定めて利用者に寄り添った介護を目指しています。併設のデイサービスの他にさらに近年サービス付き高齢者住宅を開設し運営母体を一般社団法人に変更して利用者、家族にも安心して頂けるよう取り組んでいます。歴史を重ねるごとに利用者の出来ることも変化してきており更に昨年は複数の看取りに取り組んでおり手厚いサービス提供がなされています。看取り期には訪問看護師の研修やサービス担当者会議を経ての丁寧な介護計画作成を行っており家族からも感謝されています。各ユニットミーティング、カンファレンスは毎月2回開催しておりその中で研修や運営についての意見を把握して事業所のサービス向上に役立てています。ユニットにはそれぞれの特徴があり、明るく和やかな雰囲気と、静かな落ち着いた雰囲気であり職員はその中で利用者一人ひとりがどのような日常を過ごしたいかを考え、気分転換が出来るようドライブしながらの外出にも取り組んでいます。利用者の毎日の楽しみは食事との代表者の考えからおかずの品数を増やし利用者の楽しみな時間になる様な食事がなされています。

ユニット名：1Fひまわり

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
ひまわり					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“自由で 楽しく 安心”の理念を共有し実践につなげるよう取り組んでいる。	法人代表者が定めた理念を各ユニットホール、事務室に掲示しています。新人研修では詳しく教育をしており、また毎年会議で取り上げ共有して実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、現状としては会に参加することができていない。	町内会に法人全体で加入しており役員には運営推進会議への出席で協力を得ています。町内会行事には差し入れを行い、事業所の親睦会には役員へ案内をしています。また、道路対面の住民には避難の協力をお願いしており、行事には生け花をいただき交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や研修に参加していただけるよう町内会長への情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・包括支援センター職員・知見を有する当法人事業所職員・利用者家族等に参加いただき、会の報告を職員に行っている。	運営推進会議は年6回利用者家族、町内会役員、市担当者、高齢者相談支援センター職員、民生委員、知見者等の出席を得て開催しており年2回は併設のデイサービスと合同で行っており、利用状況、活動報告をし質問、意見を得て運営に活かしています。	利用者家族の出席は少なく欠席された家族を始めとした、情報共有できる仕組みを作ることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは状況に応じて連絡を取り合う関係が築けている。	市担当者とは法人変更時に助言を得るためやその他報告書提出、改正点の確認のため積極的に訪問して指導を得たり、情報収集をし協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けては管理者、ユニット主任で話し合いながら内部研修に取り組み身体拘束の弊害や禁止事項、不適切な言葉遣いについて指導を行っています。特に言葉遣いについては日常から取り組み適切な介護が出来るよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外研修にて虐待防止について学び防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者もおり、担当後見人と話し合いを行い、制度について学ぶ機会を持ち活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時点から、契約・重要事項説明を行い、入居時に再説明し、不安・疑問を利用者に関わる方々で話し合っていたり、理解・納得していただけるまで説明を行った上で締結・解約・改定している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話対応を通して、様々な話を行い対応を行っている。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時の話の中で把握するよう努めており、特に家族の面会時には職員が積極的に会話する様指導し、伺った要望等は反映できるよう取り組んでいます。また、「はなだより」の通信を発行して様子を知らせています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・カンファレンス等で意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議は毎月2回、ユニットごとにミーティング・カンファレンスを開催しその中で業務や運営に関する話し合いも行われており職員の意見を聞く場としています。内部研修は年度当初に決めて取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各保険の加入、処遇改善加算の申請を行っており、職員の状況に応じて条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらスキルを磨くよう勧め、可能な限り受講できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりや勉強会、相互訪問などの活動を通じてサービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面で緊張されたり身構えられることが多いが、ご本人の性格に添い、思いを引き出せるような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始まで足を運んでいただいたり、電話等にて不安なことや要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向を確認しながら、その方に添ったサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の性格や生活スタイルに添い、できる事を一緒に行っていたりすることで生活に慣れ、本人らしい生活を送れるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話・手紙にて生活状況をお伝えすることで家族との関係を築くよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊・面会を通して関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者の馴染みの美容室等への訪問はありませんが、通っていた併設のデイサービスから、知人の訪問があり関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手作業や運動・おやつ等の時間等を通し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても、施設に来ていただき話をしたり、関係性を大切にし、断ち切らないような関わりを利用中から行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努め、困難な場合は本人本位に検討し、職員間でも共有している。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は日常の会話の中で把握するように努め月2回のカンファレンスで話し合いながら職員間で共有して実現できるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係機関との連携により情報を集め、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方により、心身状態や残存機能・能力等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者・職員等と話し合い、現状に即した介護計画作成に努めている。	介護計画は基本的には6ヶ月毎に利用者、家族の要望を反映して見直しています。毎月2回のカンファレンスで課題をあげサービス担当者会議を行い現状に即した介護計画を作成しサービス提供に取り組んでいます。	事故防止や介護計画見直しの為にヒヤリハットを活用する取り組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援経過記録を通じ、職員間で情報共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して柔軟な支援サービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長・民生委員・包括支援センター職員・知見を有する当法人事業所職員・利用者家族等に協力を得て支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や緊急時の受診等の支援を行っている。	かかりつけ医への受診は家族対応ではありませんが、事業所も協力しながら支援しています。訪問看護師や内科、歯科などの往診、訪問リハビリを利用している利用者もおり適切な医療を受け利用者、家族の安心に繋げています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携訪問看護事業所の看護師・かかりつけ病院の看護師へ相談し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には家族・関係機関との情報提供やケアについての話し合いを行い、医療機関との関係づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申込や契約時等その時々で早い段階から重度化や終末期のあり方について話し合いを行っている。	入居時に、重度化した場合における対応及び看取りに関する指針により利用者、家族に説明し同意を得ています。本人や家族の意向に変化があった場合は、意向に沿いながら支援しています。安心した声掛けをし身近に人を感じられるように尊厳を守り取り組んでいます。家族、職員、医師、訪問看護師と医療連携体制が整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内外で急変や事故発生時に備えての検討や訓練を行うよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難誘導訓練の実施を行い、近隣にも協力を仰ぎ、体制を築いている。	防災管理設備会社が立会い年2回、夜間想定で避難訓練を実施しています。近隣住民には避難した場合の見守りをお願いしています。	消防署立会いのもと避難訓練に取り組み、助言、指導が得られることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	言葉使いに気をつけ、上から目線ではなく人格を尊重し、着替えやオムツ替えなどには羞恥心を感じさせないように気を配っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表したり、自己決定できるような声かけや対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先ではなく、一人ひとりの生活スタイルやペースを大切に、希望に添うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容や日常の化粧・更衣等希望に添い身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を把握し、食事を楽しむことができるよう支援している。	1～2週間のメニューを職員同士で決め、調理専門職員が調理を担当し、品数も多く色とりどりの小鉢に盛り付けられ目からも楽しめるよう取り組んでいます。家族との親睦会での食事会や外出時の外食も気分転換になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、一人ひとりに応じた口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の把握を行い、トイレでの排泄を原則として自立にむけた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さり気ない声かけを心掛け、出来る限り自分でトイレでの排泄ができるように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握を行い、水分や食事にも留意し取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めてしまっているが、一人ひとりに添った洗身洗髪等の入浴支援を行っている。	週2回を基本に入浴しています。利用者の体調や気分により清拭やシャワー浴で対応し、拒否の方には職員を変えたりタイミングを見計らいながら取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したり、安心して眠れるよう、一人ひとりに添い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用・用法や用量について、調剤薬局からの薬の情報を確認し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や残存能力を活かした支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望者が年々減少してきているが、希望にそい、戸外にでかけられるよう努めている。	天気の良い日は戸外に出たり、買い物や遠方への見学ドライブ&食事、日帰り温泉ツアーなど利用者の気分転換やリフレッシュを図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状としては金銭管理ができないこともあり入居された方々がほぼ全員ではあるが、お金を所持する機会があれば、使えるよう支援に努める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの力に応じ支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節の飾りつけを行ったり、四季を感じ心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎年、事務所前の住民の方よりクリスマス、正月に生け花を提供して頂いています。季節ごとの飾りや行事の写真が飾られり、居間は適切な温度、湿度が保たれ過ごしやすい環境が整っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごせるような居場所の工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用前からご自宅等で使用していたものをお持ちいただき、本人らしく心地よい生活が送れるよう工夫している。	居室には筆筒、テーブルが設置され、利用者の使い慣れた寝具やテレビ、家族の写真、ぬいぐるみなど自分らしく自宅と同じように居心地良く暮らせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、できることを生かして生活が送れるよう工夫している。		